

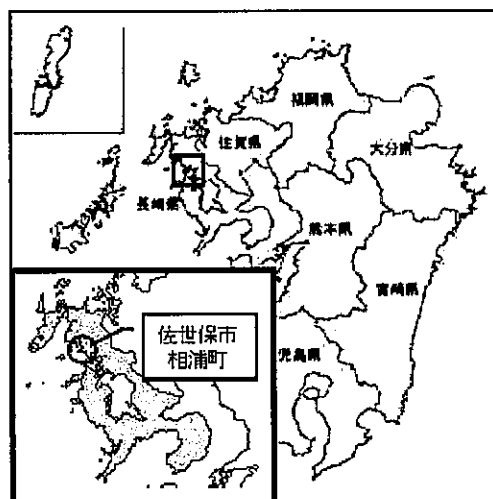
未来の島を築くため —20年後の笑顔が見たい—

佐世保市相浦漁業協同組合
青年部 内野 司

1. 地域の概要

佐世保市の西部には佐世保港から北へ25キロ、平戸瀬戸までの間に大小208の島々から成る九十九島が広がっており、風光明媚な観光地として知られている。

私が生まれ育った高島も九十九島の一つで、ほぼ全域が西海国立公園に指定されており、豊かな自然に囲まれた美しい島である。



2. 漁業の概要

佐世保市相浦漁業協同組合は九十九島に面した佐世保市の西岸に位置している。正組合員245名、准組合員278名で構成され、平成22年の水揚げ量は9,657トン、水揚げ高は40億7,000万円である。カキやフグ、ブリ、マダイなどの養殖漁業のほか、まき網、一本釣り、ごち網、刺網漁業など、様々な漁業が営まれている。

3. 研究グループの組織と運営

佐世保市相浦漁協では様々な情報交換を行う交流の場を作ることを目的として、昭和54年に40歳以下の漁業者によって青年部が発足した。

現在の部員は68名であり、大崎、浅子、高島の3つの支部から構成されている。青年部活動としては、浜掃除やガンガゼ駆除などの環境保全活動のほか、ソフトボール大会により親睦を深めている。また、総会時には海難防止講習などの学習会を併せて実施し、若い青年部員の知識向上にも努めている。

4. 研究・実践活動の取組課題選定の動機

いま、日本の漁業は「後継者不足」「高齢化」という、将来に対する不安要素をかかえている。

佐世保市相浦漁協も例外ではなく、組合員の約54%、つまり半分以上が60歳以上で、他の漁村同様に高齢化が進行している。【表1】

私の生まれ育った高島は小さな離島であることも



あり、20代の若者が極端に少なく、後継者不足は深刻な状況にある。【表2】

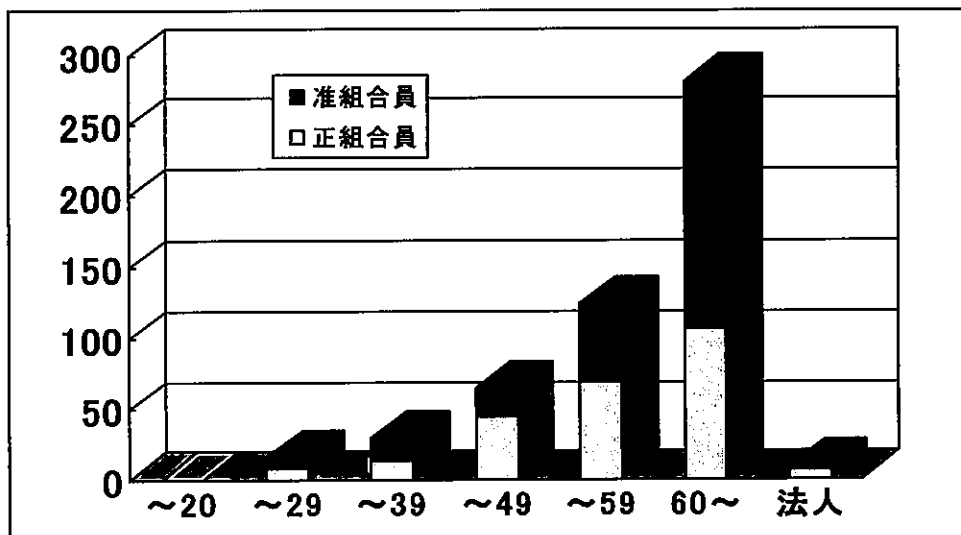
このような状況の中、佐世保市では新規就業者の支援を行う事業を展開しており、佐世保市相浦漁協では平成22年度は4件、平成23年度は2件の新規着業があつている。高島にも1名の新規就業者がおり、彼のような就業者が今後も続いてくれることを願っている。

だが、後継者不足という問題を、行政まかせにしてよいのだろうか。

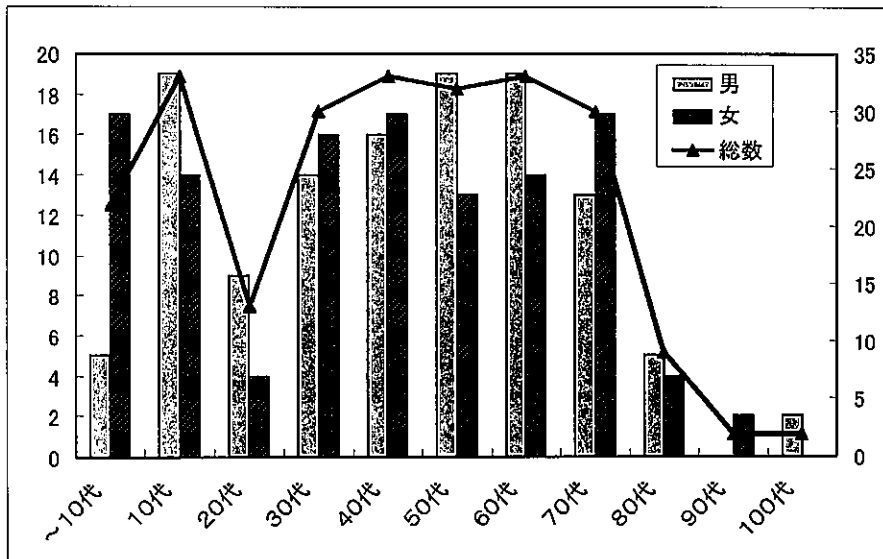
後継者不足とは、実際に漁業を行っている我々自身の問題だ。我々は豊かな海を親から引き継ぎ、漁業を営んでいる。我々には、豊かな海を残してくれた親に感謝するとともに、これからの高島を盛り立て、この海を次の世代に残していく責務があるのだ。特に後継者不足が心配される高島においては、我々が結婚して子供を育て、20年後の漁業後継者を育てることは重大な使命であり、島の未来を左右する大きな課題である。

しかしながら、高島は66世帯、人口199人の小さな離島である。中学校以上になると島外の学校に通わなければならない上に、島には女性の働き場が少ないため、学校卒業後は島に戻ってこない女性がほとんどだ。また、漁業という仕事の性格上、海に出ることはあっても街に出向くことは少なく、島外の女性と知り合う機会も少ないのが現状である。

このようなことから、佐世保市相浦漁協では平成2年から青年部が主体となってお見合いイベントを継続して行ってきたが、平成16年に区切りを迎え、お見合いイベントは終了となった。高島支部を除く大崎、浅子支部は本土地区にあるため出会いのチャンスはあるが、離島である高島支部では、お見合いイベントは女性と出会う大切な場となっていた。漁業後継者の花嫁不足が続いているのは、後継者の減少に拍車をかけることになる。そこで高島支部は、このお見合いイベントを「高島ふれ愛パーティー」と改め、平成17年から高島支部単独での取り組みとして実施していくことを決意した。



【表1】組合員年齢構成



【表2】高島町の年齢構成

5. 研究・実践活動の状況及び成果

高島ふれ愛パーティーの最終目標は、高島支部の独身男性が女性と出会い、結婚して高島の未来を担う漁業後継者を育てることである。そのためには、女性に高島での暮らしを体験してもらうことが嫁探しの第一歩となると考え、女性を高島に招いてお見合いを行うこととした。準備や進行についてもすべて自分たちの手作りでを行い、漁業体験や民泊を実施するなど工夫を加えている。

また、野外でお見合いを行うため、気候を考え毎年10月に実施することとしている。

女性の募集については、結婚を真剣に考えている女性に参加してもらうため、参加費はあえて有料とし、地元新聞はもとより福岡の新聞やタウン誌にも広告を掲載し、幅広く募集をかけている。活動資金は青年部員が参加したガンガゼ駆除、浜掃除などでの日当を積み立て、イベントの資金としている。

お見合い当日は独身者が主役である。そのため、既婚者や役員、奥さん達がスタッフとなって運営にあたる。女性には佐世保市内に集合してもらい、高島までは漁師のお見合いらしく、スタッフが操縦する漁船で移動する。高島に到着すると、男女が顔合わせをし、海鮮バーベキューで食事をしながら懇親を深める。

食事のあとは、漁船に乗ってカゴの引き上げや魚釣りなどの漁師体験を行う。これは女性に魚の釣り方、扱い方を指導することによって親交が深まることを期待して実施するものであるが、同時に女性にとっては花嫁修業の場でもある。

漁師体験が終了すると、高島名産である「高島ちくわ」の工場見学を行ったり、島内散策をしたりして交遊を深める。その後はその年によって様々だが、青年部員の家に民泊するか、佐世保市内のお店に移動してさらに懇親を深めるなどしてイベントを終了する。

高島ふれ愛パーティー
高島支部単独での取り組み
テーマは「未来の島」

ありのままの島の暮らしを体験してもらう

あえて、女性の参加費は有料！

費用は青年部員の積み立て

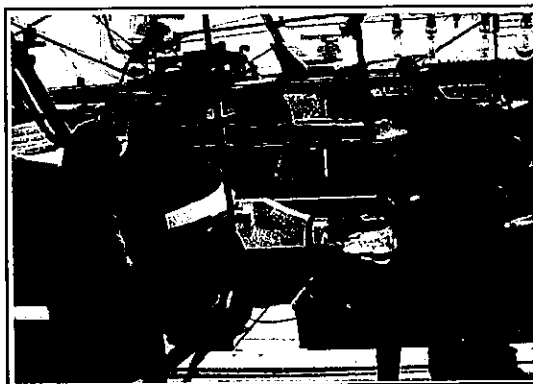
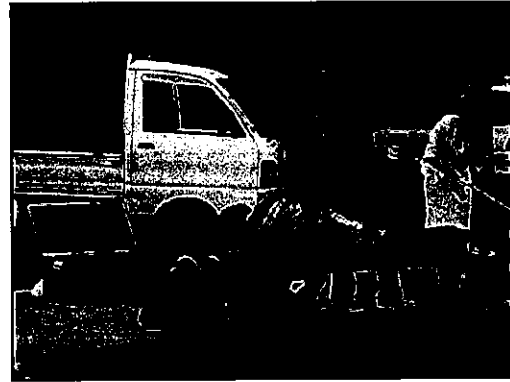
近年の参加人数、成果については別表のとおりである。【表3】
 今年の7月にはこれまでの取り組みがついに実を結び、昨年のカップルから初の成婚者が誕生した。このことはイベント創設時から運営に携わっている部員にとっても嬉しいことであり、他の独身部員にも良い刺激になっている。

また、取り組み内容についても毎年同じように行うのではなく、必ず反省会を行い、毎年見直しを行っている。これまでは、女性は福岡県など遠方からの参加が多く、カップルとなっても長期的な交際に発展しづらいことが見受けられたことから、今年は佐世保市内在住の女性に限定して募集し、イベントを行った。その結果、少ない人数であったにも関わらず3組のカップルが成立した。

	青年部	女性	カップル成立
平成19年	14	12	5組
平成20年	12	13	3組
平成21年	8	11	2組
平成22年	7	10	2組
平成23年	8	8	3組

【表3】参加人数・カップル成立数

(お見合いイベント当日の様子)



6. 波及効果

イベント開始当初は試行錯誤の繰り返しで、成果も上がらず我慢の日々が続いたが、現在では地元も理解を示してくれるようになり、イベント当日は地元の方がボランティアとして参加してくれるなど、地域のサポートを得られるようになった。いまではお見合いパーティーとしての側面だけではなく、行事や娯楽が少ない島生活での一大イベントとして認知されている。

また、平成23年には高島近隣の離島である黒島の独身男性から参加希望があり、1名の参加があった。このように、高島ふれ愛パーティーは地域を越えた取り組みとして認知されつつある。嫁不足とは離島地区が共通して抱える課題であり、同じ悩みを抱える者同士として、今後も協力していきたい。

そのほかに、過去のイベントで知り合った女性を介して交遊が広がり、その友人と交際することになり結婚に至った、というような思いがけない波及効果も出てきている。

7. 今後の課題や計画と問題点

環境問題、資源管理、後継者育成どれもすべて、地道に一步一步確実に活動を継続することが大事だと考える。

地域活性化の施策は、都会に出た若者を呼び戻すことに焦点が当てられがちだ。しかし、故郷に残った若者たちが生き生きと暮らしていける舞台をつくるのが、結局は元気な村・町をつくることになるのではないだろうか。

我々、佐世保市相浦漁協青年部では40歳をもって青年部を退部となる。高島支部でも退部していく部員は続くが、この4年間、新入部員の加入がないため、入部式を行っていない。漁業者である我々には、こうやって地道な活動を続けて、自らの仲間を増やしていくことしかできないのだ。子供はすぐにできるものではないが、我々が取り組むこの活動が成果を結び、島で家庭を持ち、家族が増え、この豊かな海を次の世代に残すことができるように願っている。漁業者自らが行う後継者対策として、20年後の未来の島のために、我々佐世保市相浦漁協青年部はこれからも小さな一歩を歩み続けていく。